

式辞

早春のこの良き日、雪の冷たさに耐えながらも木々の梢に膨らみ始めた沢山の芽が、今にも弾けそうです。

今日ここに、松本昭夫北栄町長様、佐伯健二同窓会長様をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、また、多くの保護者の方々のご参列を得て、平成27年度鳥取県立鳥取中央育英高等学校卒業証書授与式をかくも盛大に挙行出来ますことは、卒業生はもとより、本校教職員、在校生一同、誠に光榮に存ずるところであり、衷心より御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。お子様方は今ここに蛍雪の功なり、力強く新たな世界へ踏み出される日を迎えられました。高校時代は人生において誰にとっても疾風怒濤の時代であります。それだけに保護者の皆様方には或いは、はらはらする思いもあったのではないのでしょうか。そのご苦労がここに稔り、今日の日を迎えられましたことに、心からの敬意とお祝いの気持ちを表したく存じます。

さて、卒業生諸君、卒業おめでとう。諸君はこの3年間、学業をはじめ部活動、生徒会活動など様々なことに挑戦してきました。諸君にとって最後の育英祭は「史上最高」という声上がるほど素晴らしいものでした。実行委員長を中心に、白けた生徒のいない、全員参加の感動的な学園祭となりました。また、5年ぶりに10月の体育の日に開催した大運動会は、保護者の皆さん、地域の皆さんなど沢山の皆さんが応援に駆けつけてくださり、大声援の中で、どの生徒も全力を出し切ることが出来ました。観覧席からは「育英の運動会はさすがだなあ！」という言葉と共に万雷の拍手をいただきました。これらの行事は諸君にとって生涯の思い出となることでしょう。

平成27年度は、国が進める地方創生の理念にもつながる「地域探究の時間」の取り組みを始めた記念すべき年でもありました。5月11日には平井鳥取県知事をお迎えし「地域探究の時間」記念講演会を開催、「鳥取県の未来と若者の力」という演題でご講演いただきました。生徒の感想には「鳥取県は人口最小県で何も無い、つまらなところだと思っていたけど、知事の話聞いて鳥取県に誇りを持てるようになった。」「東京に出ようと思っていたけど鳥取でやるのもいいなあと思った。」などの感想が数多く寄せられました。その後2年生を中心に地域における各分野のスペシャリストの方に講師をお願いし、探究活動を開始しました。12月5日には「地域創造ハイスクールサミット」という大きなイベントを開催し、島根県立隠岐島前高校、兵庫県立村岡高校、鳥取県立智頭農林高校、岩美高校、日野高校、倉吉東高校、鳥取中央育英高校の7校の参加により、「高校生が考える地域創造」というテーマで各校の取り組みを基に意見発表用し、

討論会を行いました。当日は、多くの来場者をお迎えし、日本海新聞、朝日新聞、時事通信、NHK、TCC、ベネッセコーポレーション、リクルートの取材を受けるなど高い評価をいただきました。また、1月には北栄町議会にご協力いただき「第1回北栄町高校生議会」を開催することが出来ました。卒業生諸君の中には議長の大役を務めた生徒や高校生議員として町長さん次々と鋭い質問をした生徒もいました。議会で提案したことが実際に町政に反映されたものもありました。このような取組みを通して、生徒の地域への関心は高まり、一旦は県外へ出てもやがてふるさとへ帰り、将来は地域リーダーとなって社会に貢献しようという志を立てた人も多かったと思います。

諸君は今日、我が鳥取中央育英高等学校を卒業します。諸君の未来が輝かしいものとなるよう祈ります。諸君への贈に、創立者豊田太蔵先生直筆の書を拝読します。私が諸君の前で拝読するのはこれで3度目ですね。これが最後ですので、しっかり味わってください。

「他に勝たんと欲するもの者は、須らく先ず克己の勇気を興起すべし、己に克つことを得ざる薄志弱行の徒は、安んぞ能く他に勝つことを得んや、苟も本校に就学するものは緊禪一番、常にこの気を鼓舞振作するを要す。」

克己とは文字通り、己に克つという意味ですが、実はもっと深い意味があります。明治維新三傑の一人とも言われる西郷隆盛も「克己」という言葉を自らの人生訓とした人で、「西郷南州遺訓」という書物の中で「道は天地自然の道なるゆえ、講学の道は敬天愛人を目的とし、身を修するに克己を持って終始せよ。」と述べています。この意味は、自然を敬い、世のため人のために生きなさい、ということです。そして、そのような生き方を全うするためには「克己」の精神が必要である、と言っているのです。まさに、西郷隆盛も豊田太蔵も克己の勇気を奮い起こして生きた人でした。

諸君は今日、本校を卒業しそれぞれの目指す道に巣立って行きます。どうか高い志を持って、目標に挑戦してください。進学する人も就職する人も人の役に立ち、社会に貢献する生き方を目指してください。そして、己の弱い心に負けることなく、常に自分自身を叱咤激励して精進する。それが育英の伝統である「克己」の精神なのです。

鳥取中央育英高等学校は諸君の母校であります。卒業生は約3万人、本校を卒業した諸君の先輩は、地元地域はもとより、全国各地におられます。それら先輩の皆さんは、諸君と同じ母校の空気を共有した人たちであり、どこへ行っても必ず諸君を応援してくださいます。昨日お渡しした同窓会報は戸田通昭編集長

が渾身の力を込めて編集されたものです。どうか、じっくりと読んでください。諸君は今日から育英高校の同窓生でもあるのです。同窓会活動にも積極的に参加し、多くの人と出会い、人生を豊かにしてほしいと願っています。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、本校教育の振興のために、多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。ご来賓、保護者の皆様には、今後とも卒業生並びに鳥取中央育英高等学校に対しまして、格別のご援助を賜りますよう高壇からでございますが、伏してお願い申し上げます。まして式辞の結びといたします。

平成28年3月1日
鳥取中央育英高等学校
校長 横山尚登